

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸が原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 85人 国語B 85人

② 算数A 85人 算数B 85人

5 留意事項

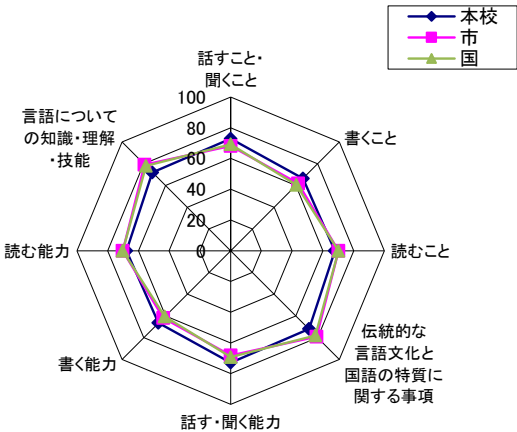
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

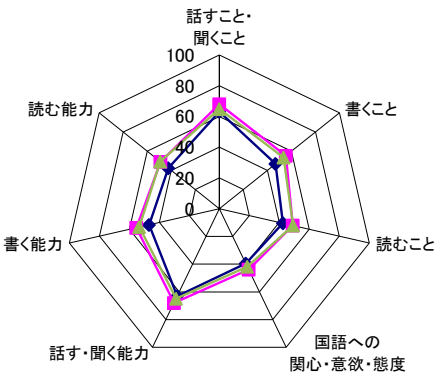
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	72.9	68.2	69.2
	書くこと	66.5	62.0	60.6
	読むこと	67.8	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.1	79.1	78.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	72.9	68.2	69.2
	書く能力	66.5	62.0	60.6
	読む能力	67.8	70.2	70.2
	言語についての知識・理解・技能	72.1	79.1	78.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	63.1	68.0	64.9
	書くこと	46.8	55.3	53.4
	読むこと	42.4	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	39.6	43.9	41.7
	話す・聞く能力	63.1	68.0	64.9
	書く能力	46.8	55.3	53.4
	読む能力	42.4	49.0	49.2
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

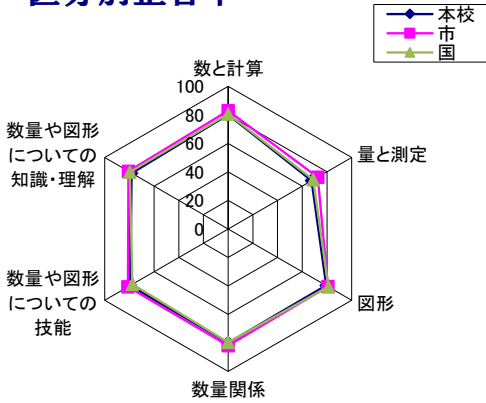
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○国語Aの「話し合いで共通点や相違点を整理して話し合う」問題では、市の平均を4.7ポイント上回った。 ●国語Bの「目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す」問題については、正答率が63.1%で市より4.9ポイント下回る結果であった。	・授業や日常での発言や発表、話し合いで、子どもたちに高い実践力があることが分かった。このよさを称賛しつつ、さらに言葉遣いへの配慮等について、一層伸ばせるように指導していく。
書くこと	○国語Aの「目的や意図に応じて内容の中心を明確に書く」問題では、市の平均を4.5ポイント上回った。特に、手紙の後付けを選択する問題では、国の正答率を11.4ポイント上回った。 ●国語Bの「目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えたり、引用したりして書く」問題では、46.8%で、国の平均53.4%を大きく下回った。	・まず、文章を書くことによって理解が深まったり、人を説得するために役立ったりする有効性や必要性を説く。その上で、構成を考えて書き、発表する活動を意図的に取り入れる。
読むこと	○国語Aは3問あったが、2問は県や国の平均値並みであった。 ●国語Bの「物語で、自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える」問題の正答率が低い。また、「具体的な叙述をもとに理由を明確にして自分の考えをまとめる」問題についても正答率が低い。	・いつでも、どんな教科の学習でも、自分の考えを持つことが大切であると説く。そして、音読の指導を重視し、繰り返し文章を読む授業づくりに努める。 ・無回答者を減らすために、与えられた課題について、解答の見つけ方や解答文を導き出す書き出しの工夫等の指導を行う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●国語Aのみの設問であるが、市の平均より7ポイント低かった。 ●漢字を書く問題が3問あったが、無回答率が9.4%から16.5%と高かった。 ●ことわざの使い方などの例として適切なものを選択する問題が2問あったが、市や国の平均を7ポイント下回っている。	・今後も漢字小テストを継続的にを行い、力を定着させていく。教科書に載っている熟語だけでなく、漢字ドリルや漢字辞典を活用して、一般的な熟語にも範囲を広げ、漢字を応用する力を伸ばすようにする。 ・朝の会などで、1日1つことわざを扱うようにして、ことわざと意味を確認するようにする。

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

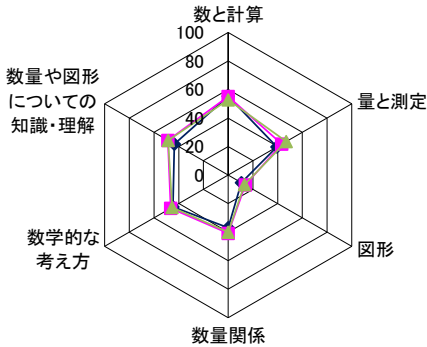
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	80.1	82.9	80.6
	量と測定	67.6	72.5	68.8
	図形	79.4	80.8	81.1
	数量関係	80.0	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	79.1	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	78.2	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	55.3	55.1	52.8
	量と測定	39.4	43.4	47.0
	図形	10.6	13.8	13.2
	数量関係	36.9	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	44.7	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	43.5	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○算数Aの「商を分数で表す」問題の正答率が80.0%で、市の75.0%、国の69.2%を上回った。 ○算数Bの「2けたのひき算の式と答えを書く」問題は正答率が84.7%で市や国より8ポイント以上高く、料金の差の求め方と答えを書く問題の正答率も6ポイント以上高かった。 ●算数Bの「2けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く」問題では、正答率が市や国より約3ポイント以上低く無解答率も18.8%と高かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・本校で実施している、毎週金曜日の朝の学習「算数チャレンジ」の時間を活用し、苦手な分野を繰り返し復習させていく。また、ドリルを活用したり、プリント等の補助教材を活用したりして、授業の中でも問題場面をイメージしながらの問題解決の時間を確保していく。
量と測定	●算数Aの「示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を正しく選ぶ」問題の正答率は61.2%で、市や国の平均より約6ポイント下回った。 ●算数Bの「飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選ぶ」問題の正答率は61.2%で市や国に比べて約6ポイント低かった。「仮の平均の考えを活用して測定値の平均を求める」問題では正答率が17.6%で市や国より約8ポイント低かった。また、無解答率も17.6%と高かった。	・これまで、実生活で生かせるような、思考力を要する教科書巻末の問題やプリントの教材などを取り上げて児童に挑戦させていく。また、必要に応じて具体物を用いながら、理解を図っていく。
図形	○算数Aの「立方体の展開図から、示された面と平行な面を選ぶ」問題の正答率は94.1%で、市や国の平均より約9ポイント上回った。 ●算数Aの「円を使って正五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを書く」問題の正答率は64.7%で、市や国の平均より約10ポイント下回った。 ●算数Bの答えを選び理由を書く問題では、市や国より僅かに下回った。無解答率は12.9%と高く市や国より4ポイント以上上回った。	・立体図形における、辺や面の垂直・平行に関しては、理解の不十分な児童が見られるので、具体物を使いながら、十分に補っていく。
数量関係	○算数Aは正答率80.0%で、国の平均をやや上回った。 ●算数Bの「式の中の数が表す意味を書きその数が表のどこに入るかを選ぶ」問題の正答率は25.9%で、市や国より約3ポイント低かった。無解答率は11.8%で市や国より2倍以上上回った。人数の割合を表しているグラフを選ぶ問題の正答率は60.0%であったが、市や国より約6ポイント低かった。無解答率は11.8%で県より約2倍上回った。	・この分野も、単元と単元の間や少人数学習のときに、思考力を要する教科書巻末の問題などを取り上げて児童に挑戦させてきたので、それを今後も続ける。 ・間違いを指摘する問題だけでなく、より積極的に活用を図れる問題場面を取り上げ、問題解決に当たらせる。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

- 国語の授業で、自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けているという児童がかなり多い。
- 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと考えている児童がかなり多い。
- 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していると回答した児童の割合は33.3%と高い。全国は26.7%である。
- 家で宿題をしていると回答した児童は85.1%で、県91%、全国88.0%よりも若干低い。多くの児童の意欲が感じられる。
- 平日にテレビゲームをしたり、携帯電話やスマートフォンでの通話やメール、インターネットを使用したりする時間は、県や国と同程度である。
- 友達の前で発表するのが得意であると回答した児童の割合は、10.3%と、県20.2%、全国21.6%と比べて低い。
- 家庭学習において、自分で計画を立てて勉強をしていると回答した児童の割合は、59.8%で、県69.7%、国64.5%と比べて低い。
- 休日に、まったく勉強をしないと回答した児童は8.0%である。
- 平日に全く読書をしていないと回答した児童は26.4%であり、県の18.9%、国の20.5%と比べて高い。
- 朝食を毎日食べている児童の割合は88.5%で、県88.9%と同程度である。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている児童の割合が85.1%とかなり高く、いじめはいけないと理解できている。
- 人の役に立つ人間になりたいと思っている児童は59%と半数を越えている。
- 将来の夢や目標を持っていると回答した児童の割合は67.8%で、県70.7%、全校70.0%とわずかに低い。

指導上の工夫

- ・各教科の学習について、達成感や成就感を味わわせる活動を意図的に取り入れ、できた喜びを積み重ねていくようにする。また、困難な状況や課題に立ち向かう態度も育てていくように、各教科で配慮して指導にあたる。
- ・グループ活動や学級全体で話し合う機会を意図的に設定し、その活動の中で全員がよく聴き、よく話すことができる指導をしていく。話し合い活動は、友達から学び合う場であると児童に認識させ、自分と異なる意見を尊重し認め合う環境づくりに努める。
- ・家庭学習の取り組みについて、よいノートのコピーを掲示したり、よさを具体的に称賛したりして児童の家庭学習への意識を高める。取り組みが難しい児童には、個人的に適切な課題を与えるようにし、児童・職員で一丸となって取り組む体制づくりをする。
- ・平日に読書をしていない児童の割合が多いことから、家庭での読書の啓発を行い、家庭との連携を深めて読書好きの児童を増やすように指導していく。

宇都宮市立御幸が原小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○主体的・対話的で深い学びを追究する授業づくりの推進 ○個に応じた指導の工夫と学習内容の定着を図る指導の強化	○友達の意見に対して温かい反応を示し、自分と友達の考えをつなぎ、ねらいにせまるために授業の質を高めていく指導過程の工夫 ○他の考えを的確にとらえ、比較したり、関連付けたりしながら自分の考えをもち、根拠を挙げて自分の考えを表現する能力・態度の育成 ○言語活動の充実を目指した授業を工夫し、校内研修の充実と、一人一授業公開の実践と授業反省会による指導法の共有化 ○各授業における「めあて」「まとめ」「振り返り」の提示・活動、板書・ノート指導の工夫	○自分の考えや意見を発表することに苦手意識をもつ児童が多い。自分と異なる友達の意見への気付きが希薄である。その点から、自分の考えを持つことが苦手となっているようである。 ○問題を読み取る力や友達の意見をとらえる力が弱い。 ○自分の考えをもとにした、まとまった文章の作成に慣れていない。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
○自分の考えを持つことが苦手。 ○問題を読み取る力、友達の意見をとらえる力が弱い。 ○まとまった文章の作成に慣れていない。	○授業形態の改善と発言の奨励・称賛 ○話し合い活動のさらなる推進 ○読書活動の推奨や文章の読解練習 ○文章を書く活動の推進 ○家庭での「復習」の奨励・啓発	○いつでも、どんな教科の学習でも、日常生活レベルで、自分の考えを持つことが大切であると説く。 ○計算練習の繰り返しや家庭での自主学習で弱点を克服できるように指導する。 ○音読の指導を重視し、繰り返し文章を読む授業づくりに努める。 ○家庭学習の啓発を繰り返し、書くことの推奨と称賛を繰り返す。家庭学習での優れたノートを継続的に掲示し、よさを広め、相互に学び合えるようにする。